

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3471504542		
法人名	(株)ユニマット リタイアメント コミュニティ		
事業所名	福山ケアセンター そよ風		
所在地	広島県福山市松永町3丁目21-70		
自己評価作成日	平成28年2月9日	評価結果市町村受理日	平成28年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台27-17-101
訪問調査日	平成28年2月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様の気持ちを受け入れ、体調管理をしっかり行い、一人ひとりのペースを大切に家庭的で笑顔の絶えない日々を送れるよう私たち職員が健康で笑顔を絶やさないように気を付けています。外出、ドライブなどで気分転換を図り、施設に引きこもりつきりにならないように配慮しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者本位の考えに基づき、職員は利用者や家族の意向に沿って柔軟に対応し、より良いケアに繋げている。理念は半年前に作り直し分かりやすくした。両ユニット共通の「ひとりの言葉を皆で聞く」という理念の実践を通して職員の業務も円滑に進み、達成感にもつながっている。毎月の全体会議、ユニット会議で、職員の意見を出しやすくし、その意見を取り入れている。防災訓練を積極的に行い、地域の協力を得ている。利用者は自ら調理の盛り付けや後片付け、洗濯物を干す等の役割を担い生き生きと生活している。また各居室で茶話会を開くなど利用者同士の交流も盛んでゆとりやすらぎのある生活を楽しんでいる。外出や外泊の時に車椅子を貸し出し、入浴や排泄について介助の方法を伝え、家族の不安を軽減し、多くの利用者が法事や正月等に帰省し、親戚や友人と交流を深めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が共通認識として理念を捉え日々のケアに反映させている。	半年前に両ユニット共通で「ひとりの言葉を皆で聞く」という理念に変えた。各ユニットで「気持ちに寄り添うケア」「毎日楽しみのある生活」を掲げ、日々実践している。また理念は利用者や家族にも説明し、理解を得て全員で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	センターの周年祭や防火訓練等に参加して頂いたり、通勤・散歩時の挨拶を欠かさないようにしている。	センターの周年祭には地域から多くの参加があった。地域の祭りでは御神輿の訪問があり、利用者が出迎えるなど交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して入居者様の様子や取組を報告し、理解を得るように活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施している。近況報告や行事に関すること、事故報告等の実情を伝えご意見やご提案を頂いている。ご意見やご提案は真摯に受け止め活かすように取り組んでいる。	2か月に1回定期的にも実施している。参加者は市の職員、民生委員、自治会員、地域包括ケアセンター、利用者、事業所職員である。内容は職員に気づきを促し、ケアの質を高めるためのヒヤリハットの活用等活発な意見の交換が行われ、参加者の理解を得ている。	運営推進会議を通して地域住民や家族の参加を促し、交流を深めるため、内容や開催日程の調整等、更なる工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して忌憚のない意見やアドバイスを頂いている。	運営推進会議や防火訓練へ参加していただき、意見やアドバイスをしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない方針で拘束のないケアに取り組んでいる。職員は拘束についてのレポートを提出したり、ミーティングで話し合ったりしている。	職員は接遇、身体拘束等の勉強会を毎月行いレポートを提出している。帰宅願望のある利用者について一緒に外出するなどの工夫をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止について十分理解し自他ともに虐待が見過ごされることがないように注意を払いケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生年後見制度を利用されている利用者様もおられ支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は管理者が行っている。しっかりと時間を取り説明し不安や疑問点にもその場で対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、ご家族様の面会時には管理者がご家族に挨拶をさせて頂き、日ごろから話しやすい環境作りを心がけている。	日頃から家族との信頼関係を築き、訪問時には職員から声をかけ、利用者の日頃の様子を伝え、家族が話しやすい雰囲気を作っている。会話から家族の思いを理解し、意見を求め、職員に申し送り、情報を共有し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者には日常的に意見を伝えている。	全体会議、ユニット会議で意見を聞く。管理者は話しやすい空気を作るよう心掛け、職員から出された意見や提案は実践に繋げている。困っていることの相談など、管理者から個人的に聞いたり声掛けをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一昨年より短期間でのセンター長交代が続いているが、職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修参加1名。力量に応じて様々な研修への参加を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんど取り組みができていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様同伴で施設見学して頂きお話を伺うなかで、安心して入居いただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話を十分に伺いその思いを尊重し安心して頂ける様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事情をしっかりと把握しサービスがうけられるよう介護支援専門員を通し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の状態を把握し持ちうる力の維持に努めている。日々の生活を通し馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密に行い、ご本人様、ご家族様との絆を大切に、又より良い関係が維持出来る様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚の方の面会等馴染みやすい生活が続けられるよう支援する	地域で暮らす友人や親せきの訪問も多く、家族の協力を得て行きつけの美容院へ通う利用者もいる。外出や外泊時に車椅子を貸し出し、入浴や排泄について介助方法を伝えて家族の不安を軽減し、法事や正月、お盆等の帰省に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両ユニットを自由に行き来していただきソファに座りいろいろと話をされたり、良い関係作りにつとめている。何かトラブルがあった場合はスタッフが間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡を頂くことがあり良い関係を大切にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前までの生活を把握したうえで、ご本人の思いも傾聴し、ここでの生活がよりよいものになるように支援を行っている。	利用者の気持ちに寄り添い、事前面談で生活歴を聞きとり情報を共有している。わらじ作りの特技を生かし、作成したわらじを配り、コミュニケーションの輪を広げるなど、特技を続けられるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や入居に至った経緯などご家族やケアマネの方より情報を程居うしていただき支援に活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重度化が進み状態も変化するが一人おひとりの心身状態等をきちんと記録に残し、職員全体で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向をもとにサービス担当者会議を開催している。	日々の生活の中から利用者の言葉を聞き、家族には訪問時に意見を聞いている。日誌やケース記録から気づいたことを職員で話し合い、それを基に計画を作成している。3か月に1回モニタリングを行い、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申送りをきちんと行うと共に日々の状態・様子を記録に残し情報を共有している。また、その情報を計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況、その時々にて対応し柔軟な支援サービスに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通いなれた美容院にご家族様のご協力のもと定期的に通われている。介護タクシーを利用してご家族様との外出を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2～3回の往診がある、またご本人、ご家族の意向に沿った内科、精神科、歯科など適切な医療がうけられるよう支援している	かかりつけ医の受診には家族と情報を共有している。また協力医との連携は密で夜間でも直接指示を受けることができる。薬についての説明を訪問の薬剤師から受け、安全安心の体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署の看護師に相談し適切な対応が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供を行い適切な処置がうけられるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人様、ご家族様、主治医との話し合いの場を設け、お互いが確認しながら方針を共有している。	終末期において事業所で対応できることと、できないことを家族に伝えている。また家族や主治医、事業所との話し合いで方針を共有して取り組んでいる。夜間でも協力医療機関から指示を受けることができる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受講し急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接の消防署の協力、ご指導のもと年3回避難訓練を行っている。また所属している自治会へご協力をお願いしている	隣接する消防署の指導を受けた避難訓練ばかりではなく地震や風水害に対する避難訓練も全職員が体験できるように何度も行っている。運営推進会議で話し合うと共に地域住民が参加している。また備蓄の用意もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴などを把握したうえで現在の心身の状態に合わせた言葉かけや対応をしている。プライバシー研修も全体会議の時にやっている。	プライバシーや接遇の職員研修を毎月の全体会議で行っている。その際「自分が本人であればどう思うか」と考え全職員で取り組んでいる。排泄ケアにおいて利用者の排泄パターンに即した声掛けや細やかな配慮で自尊心を保ち安心して過ごせるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いをくみ取り無理強いせず自分の思いを表現出来るような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流れはあるが出来る限りご本人様の思いや希望を叶えられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の訪問がありご本人の希望に沿ってカットをお願いしている。身だしなみやおしゃれに関してはご本人さまの希望や思いをご家族にお伝えし持ってきて頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者様と職員と一緒に準備・盛り付け・食器洗いなどを行っている。	献立は利用者の意見を聞き、食事の好みを把握し柔軟に対応している。季節感を大切に、ミキサー食の方にも形状はそのまま嘔下しやすい工夫をし食事を楽しみなものにする支援をしている。利用者は盛り付けや後片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの状態に合わせた食事量や水分量を提供している。摂取量はきちんと記録し不足時には時間に関わらず好みに応じたものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行いご自身で出来ない方は介助を行っている。歯科医の往診もあり歯科衛生士の指導のもとケアを行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し声掛け誘導を行いオムツに頼らずトイレにて排泄して頂けるよう支援している。尿意便意のない方などは声掛け誘導介助を行っている	日中は全員トイレにて排泄している。一人ひとりの排泄の特徴を把握し、声掛け誘導を行い、利用者が失敗することなく安心して過ごせるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便、量、形状などを記録し水分量や食事内容に気を付けたり体操等で体を動かして頂いたりし予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿えるよう心がけている。時間帯はおよそ決まっているが、なるべく希望に沿えるよう援助している	おむね週2回の入浴支援を利用者の希望に沿って行っている。冷え対策や安眠支援のため夜間に足浴を行うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアで過ごされる方はソファに座りかえていただいたり居室に戻り休んでいただいたり臨機応変に対応している。夜間は室温や照明に気を配り安眠できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された定期薬、臨薬に関しては薬剤師より説明があり理解している。不明な点などあれば薬剤師、医師、看護師等に相談質問を理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な範囲で職員と一緒にお手伝いをしていただいたり、生活の中に役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクは計5回行っている。ご利用者様の希望に沿う個別のドライブ等の支援も行っている。	年間行事として花見、動物園、初詣などの外出を全ての利用者が参加して行っている。外出時は利用者の表情も豊かで喜ぶ姿が見られる。また帰宅願望のある利用者には家族の了承を得て、自宅までドライブすることもある。職員と共に買物へ出かけることもある。	外出支援に家族の参加はしてもらってないので今後、家族の参加で交流を広げ、また家族の協力を得て個々の利用者の希望に沿った外出支援の工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なかなか、ご本人に所持してもらう事は難しいので、施設でお預かりして、欲しい物があれば職員同行で買いに行かれる方もありますが、ほとんどの方は職員に頼まれる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じてご利用様が電話をされている。年賀状・暑中見舞い等をご利用様がだされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしたり、ご利用者様同士が歓談できる場所作りを行っている。	カーテン越しに差し込む日差しはやわらかで各所にソファを配置し利用者がゆったりと寛ぐことができる。夕日が美しい窓際に立つと、職員がそっと椅子を置いてくれる。利用者同士で談笑する場では湯茶の接待もあり、ゆとりとやすらぎのある生活を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろげるソファを置いたり、気の合う方同士がゆっくり話しが出来る様に席を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様のお話を十分に伺い安心して頂けるように心がけている写真等居室に置き、いつも家族と一緒にいると思えるように支援している。それぞれの個性を活かした居室作りを心がけている	居室は利用者の使い慣れた物を利用し、状態に合わせて寝具や家具の配置を決めている。仏壇を持ち込み、毎日水をかえて心の支えとしている利用者もいる。家族の写真や手作りの作品を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレ、浴室などわかりやすく表示している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504542		
法人名	(株)ユニマツ リタイアメント コミュニティ		
事業所名	福山ケアセンター そよ風		
所在地	広島県福山市松永町3丁目21-70		
自己評価作成日	平成28年2月9日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の気持ちを受け入れ、体調管理をしっかりを行い、一人ひとりのペースを大切に家庭的で笑顔の絶えない日々を送れるよう私たち職員が健康で笑顔を絶やさないように気を付けています。外出、ドライブなどで気分転換を図り、施設に引きこもりつきりならないように配慮しています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台27-17-101		
訪問調査日			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者に寄り添う事を意識した理念をあげ、それにそったサービス提供に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や買い物を行っている。その際、近隣の方への挨拶はかかさずするよう努めている。周年祭等に地域の方に参加をして頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて入居者様の様子をお伝えしている。少しずつでも理解してもらえよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回ご家族様、市の職員、自治会の方、包括の職員を招きご報告・話し合いを行っている。忌憚のないご意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議を通じて、ご意見等を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で勉強会を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議での勉強会を踏まえて各自で自己を振り返ることを目的とした「高齢者虐待防止の為に介護職のマナー向上」についてのレポートを職員全員が提出して、意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現利用者様が、成年後見人制度を活用している。利用者様＝後見人のパイプラインになれるような関係性を築いていっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を参照し、口頭で説明している、十分な説明を行ったうえで、不明な点がないかお尋ねし同意を得たうえで契約を結んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置・運営推進会議へ家族様の参加を呼び掛けている。また、面会時には職員と話しやすいようこちらから働きかけている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング、全体会議、管理者会議を月一回行い職員の意見、提案を聞く機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長、管理者は職員の勤務条件の確認、把握を行っている。個々の実績評価を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設全体での勉強会や個々での研修や講習への参加を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職能団体等への講習会参加でネットワーク作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、ご本人、ご家族の訴えを十分に聞き取りし、職員一同周知するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活状況をお聞きし不安な面を明瞭にしたうえでケアプランの中に取り入れるようこころがけている、また密に利用者様の報告を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にホームの説明を行ったり見学して頂いたうえで常にご家族の意見を尊重している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間があれば一緒にコーヒー等をのみながら、昔の職業、子育て、戦争の話をお聞き勉強させていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化等があれば細やかにスピーディーに連絡相談しご協力いただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が訪問されている。なじみの場所への外出支援、家族行事への参加を行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に座る位置に配慮しリビングで談笑できるよう数人いらしたらお茶をいれ、職員も入りコミュニケーションを円滑に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族より電話がかかることもあり、関係性を大切に考えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居されるまでの生活を考慮したうえで、ここでの生活がよりよいものになるように努めている。ご本人様の思いを大切に寄り添っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・入居に至った経緯等をご家族様・居宅ケアマネから情報を提供して頂き支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの心身状態をしっかりと記録に残し職員全体で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意向をもとに、また日々の記録を細かく記入し担当者会議等で援助方法を話し合い支援に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、介護日誌、ホワイトボード、ヒヤリハットノート、その他の関係書類や直接の申し送りで情報を共有し、報告連絡相談をしながら実践や計画の見直しにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス・ショートステイと一緒に行事に参加したり、デイサービスの車両・ドライバーを借りてのユニットごとの外出を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この地区の自治会は積極的に支援をしてくださっている。行政、地域包括支援センター、医療関係者の協力や地域の様々な協力を得よう努力している。隣接の消防署の支援も大きい。今後は外部に向けての発信が必要である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を大切にしながらかかりつけ医の受診や往診を行っていただいている。関係性を築きながら、緊急等の往診や助言をしていただいている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が情報を共有し相談しながら適切な受診を看護を支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時に病院との情報共有に努めている。関係づくりにも努力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに協力して下さる主治医のもとご家族様・職員で		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、隣接する消防署に救急救命法の講習をしていただいている。定期的に災害に備えての講習、講演もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の中でも新人は極力避難訓練に参加している。所属している自治会へご協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を重んじ、プライバシーに配慮し生活歴等を把握したうえで現在の心身の状態に合わせた言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由な雰囲気の中で本人の思い希望を表出したり、自己決定できるように入居者様との関わりを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースを大切に、希望も聞きながら業務の状況と、職員の業務状況を考え、折り合いをつけながら支援しています。大体流れがあるので大きく違わないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みがあり身だしなみはその都度ご本人に相談しながら手伝っている。定期的に美容師の方に来て頂いてご本人の希望に沿った髪形ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と職員で食事の盛り付けや片付けをおこなっている。野菜の下ごしらえや味付けも一緒におこなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの状態に合わせて食事や水分を提供している。摂取量を記録し不足時には補えるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人の自立に向けた口腔ケアをしている。歯科医師、歯科衛生士の助言、指導を受けながら口腔ケアに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	仕草などサインを読み取りできるだけトイレで排泄して頂けるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便のチェックや体操等で体を動かしていただき予防に努めている。センナ茶、牛乳にて個々に応じてできるだけ自然に出るよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に1回は入浴できる体制を取っている。毎日入りたい方にはできるだけ毎日入れるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーや居室で休息できるよう支援している。夜間は室温、明るさに気を配り安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態が変わったりいつもと変わったことがあれば先生に連絡しこまめに薬の調整、確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に台所に立って家事行うことで自分の役割を持たれたりされている。散歩に出かけたり気分転換を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ個人の希望に沿った外出ができるよう努めている。ドライブや外食の機会をつくるよう努めている。ご家族様の協力のもと外泊支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に行ったり少額のお金を所持されたりしている。お金を持つことで安心されたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話ができるように支援している。年賀状や暑中見舞いをご家族さまにお出しする支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節に応じた飾り付けをしたり、ゆっくりとくつろいでいただけるよう心掛けている。温度や明るさを状況に応じて配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他にソファーがおいてあり、お茶を飲まれたり談笑される場所として利用して頂けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、日用品を持ってきていただけよう支援している。写真やこれまで続けていた趣味のものも持ってこられている。小さな仏壇を持ち込まれて日課の勤行をされたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室をわかりやすく表示している		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	運営推進会議を通して、地域住民や家族の参加を促し、交流を深めるため、地域の方々との連携を深める	地域での行事や社会活動に参加する。	地域の自治会、民生委員の方々センターとして、どんな形で地域と関わりが出来るか話し合いの場を作る。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。